



Fore Please /
世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝えする新連載。第10回は北アイルランドのゴルフのお話です。

メジャー王者3人を輩出した北アイルランド。

今年の全英オープンでは、北アイルランド出身のローリー・マキロイが優勝杯「クラレットジャグ」を掲げました。北アイルランドは日本で言う所の「イギリス」に属しますが、そもそもイギリスはイングランド、スコットランド、ウェールズと北アイルランドという区分から成り、その総称として正式には United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国と呼ばれています。

イギリス4区域の中でも最も小規模な北アイルランドですが、マキロイだけでなくグレラム・マクドウェルやティム・クラークなどのメジャー優勝者もこの地の出身です。200万の人口から3人のメジャー王者は恐らく世界一の比率ですね。

マキロイが子供の頃に通っていた北アイルランドの最大都市ベルファスト郊外にあるゴルフ場には、全英オープン優勝を受けて多くのメディアが押し掛け大騒ぎになりました。地元ファンの方がギネスを呑みながら応援していた様子が中継されたり、翌朝のBBCのニュースでインタビュを受けていた現地の子供達が、マキロイを彷彿とさせるショットを打っていたことも話題になりました。

去年のG8サミットが開催されたロック・アーンリゾートもベルファストから車で1時間

ぐらいの距離にあり、立派なゴルフ場も沢山あります。北アイルランドで一番有名なロイヤル・ポートルラッシュG.C.も将来の全英オープン開催地として最近発表されました。ゴルフ場の数も多く、小さい頃からゴルフに親しめるのも王者達を輩出した理由でしょうね。

Vol.10

北アイルランド
ゴルフ事情

月例競技会にもジュニアの出場枠があるシステム。

優秀なゴルファーを輩出した理由をアイルランド出身のCNNのゴルフ番組の担当をしているシェーン・オドナヒュー氏に聞いてみました。北アイルランド独特のジュニア競技システムが成功の秘訣だと言っていました。ゴルフ場の豊富さというハード面だけでなく、ジュニア向けに年齢別の大会がほぼ毎週開催されていたり、各ゴルフ場の開催する月例競技会にもジュニアの枠が必ずあったり、と恵まれた環境です。

こんな体験もありました。ロック・アーンリゾートでゴルフをした時のこと、バッグを担いでくれたキャディがどこことなくあどけないので訊ねてみると中学3年生だとか。ハンデは8で毎日隣接するゴルフ場でラウンドをして、この日はクラブに呼ばれて小遣い稼ぎをしに来たようです。翌日、その子を誘って一緒にプレーを楽しんだのですが、170cmぐらいの身長から280ヤードのドライバースhotsや200ヤード近く飛

北アイルランドの強さを支えるジュニア育成



ばす正確なアイアンショット!! 芝生の練習場で鍛えたショットは素晴らしいです。

彼は、将来アメリカの大学に奨学金を貰って行く、というしっかりした目標を持っていて二度ビックリ。北アイルランドのゴルフ場や学校にはアメリカの大学に優秀な選手を紹介したり、仲介をするシステムもあるそうです。北アイルランドのジュニアゴルフチームに入っていれば、学校の成績が悪くない限り問題なく入学できるようです。アメリカでは全米大学体育協会(NCAA)の主催するハイレベルな大会があり、各大学とも、優秀な選手集めに余念がないのです。

マキロイの活躍でさらにブランド価値が上がった北アイルランドのジュニアゴルフファーストは、上を目指してアメリカの大学経由でプロの道に進み活躍するでしょうね。北アイルランドの新たなスターが現れる日も近いかもしれません。

ゴルフビジネスのプロフェッショナル



神野方仁(じんの・みちひろ)
1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外の様々なスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメ

ジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary: www.tpi-j.co.jp/diary/index.html

イラスト/ソリマチアキラ